

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	保育実践演習		
必修選択	選択	(学則表記)	保育実践演習		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	0～5歳児の発達にあったあそびパーフェクトBOOK		出版社	ナツメ社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	実際の保育現場における設定保育や園行事の運営を模擬的に体験し、行事の成り立ちを理解し、留意点に気づく。子どもの育ちと遊びの関連性について理解し、具体的な遊びを立案、実践できる。		
到達目標	①指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観などが習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 ②保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 ③①及び②を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。		
関連資格			
関連科目	実習指導Ⅲ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	楚南 美乃	実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭及び保育士勤務経験20年以上有		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	・授業ガイダンス	・授業概要、ねらい等の説明 ・1年生の授業の振り返り
2	・遊びのどうしよう？対処法 ・第1章 ふれあいあそび	・あそびの中での「どうしよう」について考える ・あそびから育ちを知る
3	・第1章 ふれあいあそび	・ふれあいあそびの立案、準備 ・ふれあいあそびの模擬保育(グループ内発表)
4	・第1章 ふれあいあそび	・ふれあいあそびの模擬保育(全体発表) ・ふれあいあそび振り返り、発表フィードバック
5	・模擬行事①	・行事運営の成り立ち、役割等の解説、導入。 ・グループごとに演目・種目の立案、準備

6	・模擬行事①	・模擬行事の準備
7	・模擬行事①	・模擬行事の準備 ・模擬行事の実施
8	・模擬行事①	・模擬行事の実践 ・模擬行事振り返り、フィードバック
9	・第2章 運動あそび	・あそびから育ちを知る ・年齢に応じた運動あそびについて知る・立案
10	・第2章 運動あそび	・運動あそびの立案、準備 ・運動あそびの模擬保育
11	・第2章 運動あそび	・運動あそびの模擬保育(グループ内発表) ・運動あそびの模擬保育(全体発表)
12	・第2章 運動あそび	・運動あそびの模擬保育(全体発表) ・運動あそび振り返り、発表フィードバック
13	・模擬行事②	・行事運営の成り立ち、役割等の解説、導入。 ・グループごとに演目・種目の立案、準備
14	・模擬行事②	・模擬行事の準備
15	・模擬行事②	・模擬行事の準備
16	・模擬行事②	・模擬行事の準備
17	・模擬行事②	・模擬行事の準備
18	・模擬行事②	・模擬行事の実践 ・模擬行事振り返り、フィードバック
19	・第4章 造形あそび	・あそびから育ちを知る ・年齢に応じた造形あそびについて知る・立案
20	・第4章 造形あそび	・造形あそびの立案、準備 ・造形あそびの模擬保育(グループ内発表)
21	・第4章 造形あそび	・造形あそびの模擬保育(全体発表) ・造形あそび振り返り、発表フィードバック
22	・模擬行事③	・行事運営の成り立ち、役割等の解説、導入。 ・グループごとに演目・種目の立案、準備
23	・模擬行事③	・模擬行事の準備
24	・模擬行事③	・模擬行事の準備
25	・模擬行事③	・模擬行事の準備
26	・模擬行事③	・模擬行事の実践 ・模擬行事振り返り、フィードバック
27	・知育おもちゃ&感覚おもちゃ作り	・実際の園で使える「知育おもちゃ」や「感覚おもちゃ」について学び、各自で作る
28	・知育おもちゃ&感覚おもちゃ作り	・他の人の作った「知育おもちゃ」と「感覚おもちゃ」の完成品を観覧して省察する。
29	・ちょこっとあそび	・ちょこっとあそびについて ・ちょこっとあそびの発表、振り返り
30	・年間授業振り返り	・7つのあそびから育ちを知る振り返り ・年間の模擬保育、模擬行事の振り返り、フィードバック

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	子どもの安全管理		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの安全管理		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	保育・教育施設における事故予防の実践			出版社	中央法規

科目の基礎情報②

授業のねらい	実践的な傷害予防を身につける				
到達目標	子どもの事故予防として、効果のない方法と効果のある方法の違いを知る どのようにすれば事故を予防できるのかを具体的に考え、行うことができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	仲西 佳代			実務経験	○
実務内容	看護師としての勤務経験9年有り。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	1章 保育・教育施設における事故の実態①	オリエンテーション なぜ子どもを守るのは難しいのか？
2	1章 保育・教育施設における事故の実態②	科学的な視点による傷害予防の見直し
3	2章 傷害予防の基本的な考え方①	傷害を予防するための「3つのE」
4	2章 傷害予防の基本的な考え方②	社会の典型的な反応と、傷害予防につながる仕組みづくり
5	3章 科学的傷害予防の基本手順①	キーワードの理解
6	3章 科学的傷害予防の基本手順②	科学的障害予防の基本手順
7	3章 科学的傷害予防の基本手順③	リスクの分析
8	3章 科学的傷害予防の基本手順④	予防方法の開発

9	3章 科学的傷害予防の基本手順⑤	家庭への科学的傷害予防の普及に向けた保育・教育施設の役割
10	4章 予防につながる事故・ヒヤリハットデータの収集と予防への取り組み①	予防のための事故・ヒヤリハットデータの記録 既存の事故データベースの活用
11	4章 予防につながる事故・ヒヤリハットデータの収集と予防への取り組み②	職員・教員への研修
12	4章 予防につながる事故・ヒヤリハットデータの収集と予防への取り組み③	アニメーションを活用した予防教育と、魚肉ソーセージの模擬実験
13	4章 予防につながる事故・ヒヤリハットデータの収集と予防への取り組み④	チャイルドシート
14	4章 予防につながる事故・ヒヤリハットデータの収集と予防への取り組み⑤	園児や保護者への傷害予防教育・啓発方法
15	4章 予防につながる事故・ヒヤリハットデータの収集と予防への取り組み⑥	地域で取り組む子どもの傷害予防プロジェクト 総まとめ
16	5章 頻発事故への予防の提案と実践①	誤飲・食中毒
17	5章 頻発事故への予防の提案と実践②	溺水
18	5章 頻発事故への予防の提案と実践③	やけど
19	5章 頻発事故への予防の提案と実践④	転倒・転落
20	5章 頻発事故への予防の提案と実践⑤	交通事故
21	5章 頻発事故への予防の提案と実践⑥	遊具による事故
22	5章 頻発事故への予防の提案と実践⑦	窒息
23	5章 頻発事故への予防の提案と実践⑧	熱中症
24	5章 頻発事故への予防の提案と実践⑨	応急処置と心肺蘇生法
25	5章 頻発事故への予防の提案と実践⑩	乳幼児突然死症候群
26	5章 頻発事故への予防の提案と実践⑪	野外保育における事故
27	6章 保育の安全にかかわる法律①	「法」とは 保育・教育施設に適用される法
28	6章 保育の安全にかかわる法律②	子どもの事故に関する責任
29	6章 保育の安全にかかわる法律③	裁判から学ぶ事故事例
30	まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	子どもの文化		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの文化		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	『たっぷり！年中行事シアター』*1			出版社	ひかりのくに株式会社

科目の基礎情報②

授業のねらい	体験を通して児童文化のおもしろさと役割を理解し、実践力を身につける				
到達目標	①様々な児童文化財を実際に制作し、活用できる ②保育現場における具体的展開のための技術を習得する ③子どもの生活と遊びを豊かに創造できる保育者について考察する				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	楚南 美乃			実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭及び保育士勤務経験20年以上有				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・評価について解説
2	児童文化とは	児童文化についての講義
3	春の行事①	絵本・紙芝居の紹介
4	春の行事②	保育グッズ制作
5	春の行事③	保育グッズ発表
6	児童文化施設とは①	児童文化施設についての講義
7	児童文化施設とは②	グループで地域の文化施設を調べる
8	児童文化施設とは③	「地域の文化施設を紹介しよう」のテーマでグループ発表

9	夏の行事①	絵本・紙芝居の紹介
10	夏の行事②	保育グッズ制作
11	夏の行事③	保育グッズ発表
12	パペット①	保育グッズ制作
13	パペット②	保育グッズ制作
14	パペット③	保育グッズ発表
15	前期のまとめ	前期の振り返り
16	秋の行事①	絵本・紙芝居の紹介
17	秋の行事②	保育グッズ制作
18	秋の行事③	保育グッズ発表
19	伝承遊び①	わらべうた、数え歌、等で遊ぶ
20	伝承遊び②	わらべうた、数え歌、等の基礎知識や保育との関わりを調べ発表する
21	伝承遊び③	折り紙、あやとり、かるた、お手玉、コマ回し、凧揚げ等で遊ぶ
22	伝承遊び④	折り紙、あやとり、かるた、お手玉、コマ回し、凧揚げ等の基礎知識や保育との関わりを調べ発表する
23	冬の行事①	絵本・紙芝居の紹介
24	冬の行事②	保育グッズ制作
25	冬の行事③	保育グッズ発表
26	ゲーム①	パズル、しりとり、なぞなぞ、すごろく等で遊ぶ
27	ゲーム②	パズル、しりとり、なぞなぞ、すごろく等の基礎知識や保育との関わりを調べ発表する
28	お話①	制作した保育グッズを使用し、お話を創作
29	お話②	創作お話の発表
30	総まとめ	1年間の振り返りと今後の課題について考える

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	造形表現Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	造形表現Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合科	2	60
使用教材	参考資料：「生活事例から始める造形表現」「幼児造形の基礎」		出版社	青踏社・萌文書林	

科目の基礎情報②

授業のねらい	造形表現を通じて、保育者として子どもたちの感性を培うことができるようになる 保育者として必要な造形に関する知識教養を身につけ、子どもの造形活動を行えるようになる		
到達目標	①幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、指導計画を立てることができるようになる ②造形技法、道具・素材を使って、保育教材を作成し保育に活かすことができるようになる ③様々な造形表現の基礎知識・技能をいかし、子どもの表現活動に展開させることができるようになる		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上ある者		
関連資格			
関連科目	造形表現Ⅰ・造形表現Ⅱ・おもちゃ実践Ⅰ・おもちゃ実践Ⅱ・おもちゃ実践Ⅲ・おもちゃ実践Ⅳ		
備考	原則、この科目は対面授業方式にて実施する。		
担当教員	喜屋武 千恵	実務経験	○
実務内容	中高美術の専修免許を取得し、幼稚園、保育園、こども園において保育制作及び造形表現の授業担当等20年以上の指導経験を有する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業「造形表現」の概要及び年間計画提示
2	幼児造形教育の方法①	素材からの造形表現・描画材の種類Ⅰ（絵の具・クレパス）（造形表現Ⅰ・Ⅱの復習）と技法指導
3	幼児造形教育の方法②	素材からの造形表現・描画材の種類Ⅱ（マーカー・ペン・色鉛筆他）（造形表現Ⅰ・Ⅱの復習）と技法指導
4	幼児造形教育の方法③	紙の素材と種類・描画等への活用
5	幼児造形教育の方法④	紙とハサミの指導法実践
6	幼児造形教育の方法⑤	接着（のり・木工用ボンド・ホッチキス・セロハンテープ）の種類及び指導法実践
7	幼児造形教育の方法⑥	子どもの表現を生み出す人的環境としての保育者の役割理解
8	幼児造形教育への実践①	保育教材研究（イメージを豊かにする）

9	幼児造形教育への実践②	イメージを豊かにする保育教材の作成
10	幼児造形教育への実践③	イメージを豊かにする保育教材の作成
11	幼児造形教育への実践④	イメージを豊かにする保育教材の作成
12	幼児造形教育への実践⑤	イメージを豊かにする保育教材の作成
13	幼児造形教育の方法と実践①	保育教材を活用した保育の指導案の作成
14	幼児造形教育の方法と実践②	保育教材を使用した模擬保育
15	幼児造形教育の方法と実践③	保育教材を使用した模擬保育
16	幼児造形教育への実践⑥	子どもの発達と造形について（造形表現Ⅰ・Ⅱの復習と展開）
17	幼児造形教育への実践⑦	子どもの発達と造形についての学びを保育に活かす（造形表現Ⅰ・Ⅱの展開）
18	幼児造形教育への実践⑧	子どもの発達と造形についての学びを保育に活かす（造形表現Ⅰ・Ⅱの展開）
19	幼児造形教育への実践⑨	季節や行事を感じる造形表現の制作
20	幼児造形教育への実践⑩	季節や行事を感じる造形表現の制作
21	幼児造形教育への実践⑪	季節や行事を感じる造形表現の制作の発表
22	幼児造形教育への実践⑫	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
23	幼児造形教育への実践⑬	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
24	幼児造形教育への実践⑭	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
25	幼児造形教育への実践⑮	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
26	幼児造形教育への実践⑯	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
27	幼児造形教育への実践⑰	色々な材料の造形の指導案作成
28	幼児造形教育の方法と実践⑤	色々な材料の造形の模擬保育
29	幼児造形教育の方法と実践⑥	色々な材料の造形の模擬保育
30	まとめ・振り返り	1年間のまとめと振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	音楽表現Ⅴ		
必修選択	選択	(学則表記)	音楽表現Ⅴ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	実用版ようちえんほいくえんのうた大集合			出版社	デプロMP

科目の基礎情報②

授業のねらい	弾き歌いを通し、より実践的な技術を身につける。				
到達目標	簡易伴奏やコード伴奏でも、歌いながら両手で演奏できる技術を身につける				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	音楽表現Ⅰ・音楽表現Ⅱ・音楽表現Ⅲ・音楽表現Ⅳ・音楽表現Ⅵ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	大宜見 久仁子			実務経験	○
実務内容	ピアノ講師歴30年以上経験有、小中高音楽教員免許取得者				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、流れ、ルール等について
2	あそびうた	あそびうたに親しみ、弾き歌い練習
3		
4		
5	どうよう	童謡、季節の歌、行事の歌弾き歌い練習
6		
7		
8		
9		

10		
11		
12		
13	人気・定番曲	人気曲の弾き歌い練習
14		
15	発表・まとめ	これまで学習した曲から弾き歌い
16		
17	人気・定番曲	定番曲、子どもの歌弾き歌い練習
18		
19		
20		
21	新沢としひこ作品	新沢としひこ作品に親しみ、弾き歌い練習
22		
23		
24		
25	クリスマス	クリスマスの曲、弾き歌い練習
26		
27		
28	卒園式	卒園の歌、弾き歌い練習
29		
30	発表・まとめ	これまで学習した曲から弾き歌い

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	音楽表現Ⅵ		
必修選択	選択	(学則表記)	音楽表現Ⅵ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	"体を楽器"にした音楽表現リズム＆ゲームにどっぷり！リトミック77選 保育で使える合奏楽譜ベストセレクション			出版社	明治図書 ひかりのくに

科目の基礎情報②

授業のねらい	・リトミックの考えを学び、子どもの音楽表現に役立てる。 ・合奏の指導技術を身に付ける。				
到達目標	・リトミックの意義を理解し、音楽を身体で表現することができる。 ・楽器の指導法を理解し、指導ができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	音楽表現Ⅰ・音楽表現Ⅱ・音楽表現Ⅲ・音楽表現Ⅳ・音楽表現Ⅴ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	伊佐 奈津代			実務経験	○
実務内容	中高音楽の教員免許を取得し、ピアノ講師として未就学児から高校生まで30年以上の指導経験を有する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	リトミックの考え方	音楽と動き
2	からだのなかの音楽	からだの中から生まれる音楽
3	ビートにのろう	拍の中のアクセント
4		
5		
6	拍子を感じよう	拍子の体感と表現
7		
8		

9	フレーズ・呼吸・空間	リズムや旋律のまとまりを動く
10		
11	ロープdeゲーム	イメージ遊び
12	対話を楽しもう	即興演奏
13	歌&楽器deゲーム	音楽の会話
14	リトミック活動のまとめ	指導計画立案と発表
15	リトミック活動のまとめ	リトミックで学んだことの確認とまとめ
16	合奏について/2歳児	幼児の合奏指導の導入方法
17	2歳児の合奏	楽器の使い方と指導法
18	3歳児の合奏	楽器の使い方と指導法
19		
20	2・3歳児のまとめ	指導計画立案
21	2・3歳児のまとめ	模擬指導の発表
22	4歳児の合奏	複数楽器から構成される楽譜と指導法
23		
24		
25	5歳児の合奏	音程楽器の導入と指導法
26		
27		
28		
29		
30	合奏のまとめ	演奏発表・まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	音楽表現Ⅶ		
必修選択	選択	(学則表記)	音楽表現Ⅶ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	保育で使える合奏楽譜ベストセレクション			出版社	ひかりのくに

科目の基礎情報②

授業のねらい	・ こどもの合奏の指導技術を身に付ける。				
到達目標	・ 楽器の指導法を理解し、指導することができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	音楽表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	伊佐 奈津代			実務経験	○
実務内容	中高音楽の教員免許を取得し、ピアノ講師として未就学児から高校生まで30年以上の指導経験を有する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	合奏について/2歳児	幼児の合奏指導の導入方法
2		
3	2歳児の合奏	楽器の使い方と指導法
4		
5	3歳児の合奏	楽器の使い方と指導法
6		
7		
8		

9	2・3歳児のまとめ	指導計画立案
10		
11	2・3歳児のまとめ	模擬指導の発表
12		
13	4歳児の合奏	複数楽器から構成される楽譜と指導法
14		
15		
16		
17		
18		
19	5歳児の合奏	音程楽器の導入と指導法
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29	合奏のまとめ	演奏発表・まとめ
30		

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	プレゼンテーション		
必修選択	選択	(学則表記)	プレゼンテーション		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	なし			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育士・幼稚園教諭として相応しいプレゼンテーションスキルを理解する。		
到達目標	保育士・幼稚園教諭として相応しい言葉遣いにて保護者向けのプレゼンテーションを行うことができる。 実習での学びについてのプレゼンテーションを行うことができる。 自身の所属コースにおける学びについてのプレゼンテーションを行うことができる。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。		
関連資格	保育士・幼稚園教諭2種		
関連科目	表現系科目、実習指導系科目、情報処理		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	豊里　リカ	実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭資格を取得し、幼稚園教諭として15年勤務経験有		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、成績評価の基準について説明。 プレゼンテーションの必要性を考える。
2	自分自身を知る	就職活動や実習先での自己紹介を作成する。 自己分析を実施する。
3	テーマ別自己紹介内容の作成①	園長先生向け自己紹介の作成。保護者向け自己紹介の作成。園児向け自己紹介の作成。
4	テーマ別自己紹介内容の作成②	園長先生向け自己紹介の作成。保護者向け自己紹介の作成。園児向け自己紹介の作成。
5	テーマ別自己紹介内容の発表①	クラス内での発表①
6	テーマ別自己紹介内容の発表②	クラス内での発表②
7	他己紹介内容の作成①	自己紹介の発表を踏まえて、他己紹介の取材を行う。保護者向けの作成。園児向けの作成。
8	他己紹介内容の作成②	園の教職員紹介をするイメージにて他己紹介の作成を行う。

9	他己紹介の発表①	クラス内での発表①
10	他己紹介の発表②	クラス内での発表②
11	保育の現代的な課題の調べ学習①	現代の子どもたちを取り巻く環境や保育業界の課題について調べる①
12	保育の現代的な課題の調べ学習②	現代の子どもたちを取り巻く環境や保育業界の課題について調べる②
13	保育の現代的な課題の調べ学習③	現代の子どもたちを取り巻く環境や保育業界の課題について調べる③
14	保育の現代的な課題の調べ学習④	現代の子どもたちを取り巻く環境や保育業界の課題について調べる④
15	総まとめ①	前期の振り返りとまとめを行う。
16	保育の現代的な課題の発表①	クラス内での発表①
17	保育の現代的な課題の発表②	クラス内での発表②
18	保育の現代的な課題の発表③	クラス内での発表③
19	保育の現代的な課題の発表④	クラス内での発表④
20	PPTにおけるプレゼンテーション①	PPTにおけるプレゼンテーション手法を理解する。PPTに触れる①
21	PPTにおけるプレゼンテーション②	PPTにおけるプレゼンテーション手法を理解する。PPTに触れる②
22	コースの学びのプレゼンテーション作成①	専門コースでの学びをどう活かすかを踏まえたプレゼンテーションを作成する①
23	コースの学びのプレゼンテーション作成②	専門コースでの学びをどう活かすかを踏まえたプレゼンテーションを作成する②
24	コースの学びのプレゼンテーション作成③	専門コースでの学びをどう活かすかを踏まえたプレゼンテーションを作成する③
25	コースの学びのプレゼンテーション作成④	専門コースでの学びをどう活かすかを踏まえたプレゼンテーションを作成する④
26	コースの学び発表会①	コースの学び発表会①
27	コースの学び発表会②	コースの学び発表会②
28	コースの学び発表会③	コースの学び発表会③
29	コースの学び発表会④	コースの学び発表会④
30	総まとめ②	後期と年間の振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	実習指導Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	実習指導Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	各校対応			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育実習の意義を理解し、実習に必要な知識、技能、心構えを身に付ける。 保育者としての専門性をより高める。				
到達目標	①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 ②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。 保育実習Ⅰ・保育実習Ⅱ の単位を取得している者。				
関連資格					
関連科目	実習指導Ⅰ・実習指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	川満 美和			実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭として10年以上勤務経験有				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス 保育実習の概要	保育実習について
2	保育実習日誌の書き方	保育実習日誌の書き方 復習 0～2歳児の発達と配慮点について
3	保育実習日誌の書き方	実習日誌全項目の内容確認
4	責任実習指導案作成	責任実習での具体的配慮や書き方を確認する
5	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
6	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する

7	実習直前指導	自己課題の準備と確認 プライバシーの保護と守秘義務について
8	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
9	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
10	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
11	実習直前指導	自己課題の準備と確認 プライバシーの保護と守秘義務について
12	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
13	保育士の専門性を深める①	保育士の専門性（子どもとの関わり、保育技術などについて）
14	保育士の専門性を深める②	保育士の専門性(保育内容、保育環境などについて)
15	見通しを持った保育の必要性①	月案から週案を立案する
16	見通しを持った保育の必要性②	月案から週案を立案する
17	保育実践力を培う①	就職後、実習生を受け入れることを想定し、他者の日誌から書き方を添削する。
18	保育実践力を培う②	就職後、実習生を受け入れることを想定し、他者の日誌から書き方を添削する。
19	保育実践力を培う③	就職後、実習生を受け入れることを想定し、他者の指導案から書き方を添削する。
20	保育実践力を培う④	就職後、実習生を受け入れることを想定し、他者の指導案から書き方を添削する。
21	連絡帳の書き方①	連絡帳の役割を知る 連絡帳を書くときに心掛けたいこと/思いが伝わる文章テクニック/NGポイント
22	連絡帳の書き方②	事例をもとに書く
23	要録について理解を深める①	要録の目的・書き方について学ぶ
24	要録について理解を深める②	要録の目的・書き方について学ぶ
25	就職後を見据えた取り組み①	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う
26	就職後を見据えた取り組み②	
27	就職後を見据えた取り組み③	
28	就職後を見据えた取り組み④	
29	保育者としての職業倫理	保育者としての資質
30	まとめ	1年間の学びのまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅰ（保育所）		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習Ⅰ（保育所）		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材	なし			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について学ぶために、保育所の生活に参加する。				
到達目標	①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
評価基準	実習評価40 日誌・指導案60 を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。				
認定条件	実習規定に定める必要時間数以上の出席をしている者。 成績評価が3以上の者。 実習指導Ⅲ・保育実習Ⅱ（又は保育実習Ⅲ）の単位を取得している者。				
関連資格					
関連科目	実習指導Ⅲ				
備考					
担当教員	川満 美和			実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭として10年以上勤務経験有				

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	保育実習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材	なし			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育所での保育を実践し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。		
到達目標	①保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ③既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について相互的に理解する。 ④保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 ⑥実習における自己の課題を明確化する。		
評価基準	実習評価40　日誌・指導案60　を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。		
認定条件	出席が90単位時間以上ある者。 成績評価が3以上の者。 実習指導Ⅲ・保育実習Ⅰ（保育所）の単位を取得している者。		
関連資格			
関連科目	実習指導Ⅲ		
備考			
担当教員	平川　香	実務経験	○
実務内容	保育士、幼稚園教諭資格を取得し、幼稚園勤務経験3年、保育園勤務経験10年以上を有する		

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	保育実習Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材	なし			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	児童福祉施設での保育を実践し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援・保護者支援するために必要とされる能力を養う。				
到達目標	①既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。 ②家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 ③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。 ④実習における自己の課題を理解する。				
評価基準	実習評価40 日誌・指導案60 を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。				
認定条件	出席が90単位時間以上ある者。 成績評価が3以上の者。 実習指導Ⅲ・保育実習Ⅰ（保育所）の単位を取得している者。				
関連資格					
関連科目	実習指導Ⅲ				
備考					
担当教員	平川 香			実務経験	○
実務内容	保育士、幼稚園教諭資格を取得し、幼稚園勤務経験3年、保育園勤務経験10年以上を有する				

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	心理実践Ⅰ／子育て心理		
必修選択	選択必修	(学則表記)	心理実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子育ての発達心理学			出版社	同文書院

科目の基礎情報②

授業のねらい	発達段階ごとの子どもの成長の主な特徴について発達心理学の知見を踏まえ理解するとともに、各発達段階において生じる子ども及び保護者の課題に対する対応について事例を通して学ぶ。				
到達目標	1.心理学的観点から、発達についての知識を習得する。 2.病児や蹟き等、様々な子どもの発達特性や、その保護者の心理状態について知識を習得する。 3.家庭や福祉医療施設等における子育ての背景を理解し、保護者への適切な関わりについての知識・技術を習得する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	心理実践Ⅱ 心理実践Ⅲ 心理実践Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業方式にて実施する。				
担当教員	下地 恭子			実務経験	○
実務内容	小学校専修免許、養護学校教諭免許を取得し、障害児教育の研究活動を行って病院及び小学校、特別支援学校等の勤務経験を10年以上有する				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について 子どもはどうやって育つか
2	乳幼児と養育者	知性の身体化と養育者の役割
3	保育と発達 ①	保育の5領域と発達理論の関係 ①
4	保育と発達 ②	保育の5領域と発達理論の関係 ②
5	様々な発達理論 ①	乳幼児期と愛着 ①（愛着の形成と展開）
6	様々な発達理論 ②	乳幼児期と愛着 ②（愛着形成を阻害するものとは）
7	様々な発達理論 ③	乳幼児期と保幼小接続
8	様々な発達理論 ④	児童期以降の発達理論 ①

9	様々な発達理論 ⑤	児童期以降の発達理論 ②
10	様々な発達理論 ⑥	児童期以降の発達理論 ③
11	様々な発達理論 ⑦	児童期以降の発達理論 ④
12	様々な発達理論 ⑧	児童期以降の発達理論 ⑤
13	総まとめ ①	振り返り 解説
14	情緒の発達 ①	情緒・感情とは
15	情緒の発達 ②	他者感情の理解と向社会的行動の発達
16	認知の発達 ①	認知の発達 ①
17	認知の発達 ②	認知の発達 ②
18	認知の発達 ③	認知の発達 ③
19	子どもの遊びの発達 ①	発達と遊びの関係性 ①
20	子どもの遊びの発達 ②	発達と遊びの関係性 ②
21	子どもの遊びの発達 ③	発達と遊びの関係性 ③
22	子どもの遊びの発達 ④	発達と遊びの関係性 ④
23	発達の躓きと養育者・施設の役割 ①	発達を妨げる疾病等の理解 ①
24	発達の躓きと養育者・施設の役割 ②	発達を妨げる疾病等の理解 ①
25	発達の躓きと養育者・施設の役割 ③	各障害の特徴と対処例 ①
26	発達の躓きと養育者・施設の役割 ④	各障害の特徴と対処例 ②
27	発達の躓きと養育者・施設の役割 ⑤	福祉施設が目指す子どもの発達
28	総まとめ ②	振り返り 解説
29	子育て支援について ①	子育て支援の必要と手法
30	子育て支援について ②	子どもの観察と研究法

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	心理実践Ⅱ／子育て家庭とストレスケア		
必修選択	選択必修	(学則表記)	心理実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	ストレスマネジメント入門／保育者のためのこども虐待対応の基本		出版社	金剛出版／ひとなる書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	虐待によって受ける心身への深刻な影響や死亡する子どもが増加する現代社会において、日常的に子どもと関わる専門職に求められる知識や具体的な対応について理解していく。		
到達目標	1.保育・教育実践にかかわる心理学的知識を習得する。 2.発達障害やその他の乳幼児のための教育評価・支援方法を現代社会の問題に沿って習得する。 3.虐待が発生する一要因としてのストレスについて学び、対処技術であるストレスマネジメントを習得する。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。		
関連資格			
関連科目	心理実践Ⅰ　心理実践Ⅲ　心理実践Ⅳ		
備考	原則、この科目は対面授業方式にて実施する。		
担当教員	下地　恭子	実務経験	○
実務内容	小学校専修免許、養護学校教諭免許を取得し、障害児教育の研究活動を続けながら病院及び小学校、特別支援学校等の勤務経験を10年以上有する		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について 児童虐待と保護者との関わりを学ぶ意義
2	コモンセンスペアレンティングとは	コモンセンスペアレンティングの必要性について
3	児童虐待とは ①	虐待とは 何が虐待を招くのか 児童虐待に関わる法令
4	児童虐待とは ②	様々な虐待事件について
5	保護者が抱えるストレス ①	ストレスとは
6	保護者が抱えるストレス ②	子育てにおける不安 子育てで怒る保護者の気持ち
7	子どもへの様々な影響 ①	虐待による子どもへの影響 ①
8	子どもへの様々な影響 ②	虐待による子どもへの影響 ②

9	子どもへの様々影響 ③	虐待による子どもへの影響 ③
10	園における対応と流れ ①	保護者・子どもへの変化の気づき
11	園における対応と流れ ②	児童虐待への対応
12	園における対応と流れ ③	保護者の悩みを受容する意味
13	総まとめ ①	振り返り・解説
14	環境刺激に対するヒトの行動様式	保護者の養育態度とタイプ行動A
15	ストレスに強い人格 ①	保護者が子どもに望むこと
16	ストレスに強い人格 ②	保護者が自己効力感を得る支援
17	社会的興味と外向性 ①	社会的興味 内向性・外向性
18	社会的興味と外向性 ②	保護者が他者と関わる意味 ①
19	社会的興味と外向性 ③	保護者が他者と関わる意味 ②
20	楽観主義と完璧主義 ①	楽観主義と完璧主義 ①
21	楽観主義と完璧主義 ②	楽観主義と完璧主義 ②
22	イメージリラックス・トレーニング	子育てとリラクゼーション
23	問題解決法とタイムマネジメント	保護者の日常と時間的余裕へのアプローチ
24	非合理的な考え方 ①	非合理的な考え方の理論と要因 ①
25	非合理的な考え方 ②	非合理的な考え方の理論と要因 ②
26	様々なケースへのアプローチ ①	多様な虐待ケースにおける対応 ①
27	様々なケースへのアプローチ ②	多様な虐待ケースにおける対応 ②
28	総まとめ ②	振り返り・解説
29	様々なケースへのアプローチ ③	多様な虐待ケースにおける対応 ③
30	様々なケースへのアプローチ ④	多様な虐待ケースにおける対応 ④

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	心理実践Ⅲ／カウンセリング		
必修選択	選択必修	(学則表記)	心理実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子育て支援カウンセリング 幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート		出版社	図書文化社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	カウンセリングの諸理論を通してカウンセリング場面の基本的姿勢や技法を体験学習を通じて学ぶ。また、自身や他者のところについて理解を深め、人との関わりについて学ぶ。		
到達目標	・ カウンセリングの理論と実施について習得する。 ・ 教育、臨床現場で起こりえる問題や状況に応じた援助に役立つ能力を習得する。 ・ 傾聴、他者理解を体験しながら身につける。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。		
関連資格			
関連科目	心理実践Ⅰ 心理実践Ⅱ 心理実践Ⅳ		
備考	原則、この科目は対面授業方式にて実施する。		
担当教員	下地 恭子	実務経験	○
実務内容	小学校専修免許、養護学校教諭免許を取得し、障害児教育の研究活動を続けながら病院及び小学校、特別支援学校等の勤務経験を10年以上有する		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス よりよい子育て支援のために	授業の進め方について 保育者の心を支えるために必要なこと
2	自分を知る・他者を知る	自己開示とは 物事の感じ方を理解する
3	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ①	ロジャーズの来談者中心療法
4	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ②	カウンセリングに必要なコミュニケーション ①
5	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ③	カウンセリングに必要なコミュニケーション ②
6	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ④	ロールプレイ体験 ①
7	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ⑤	共感と純粋性
8	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ⑥	沈黙が訪れる場面とその時の対応 質問の技法

9	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ⑦	ロールプレイ体験 ②
10	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ⑧	繰り返しの技法 会話を要約をする意味
11	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ⑨	クライアントの支持をする意味
12	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ⑩	ロールプレイ体験 ③
13	総まとめ ①	振り返り・解説
14	子育て支援に生かす様々な心理学理論 ①	フロイトの精神分析論
15	子育て支援に生かす様々な心理学理論 ②	アドラーの個人心理学
16	子育て支援に生かす様々な心理学理論 ③	ユング心理学
17	子育て支援に生かす様々な心理学理論 ④	交流分析
18	子育て支援に生かす様々な心理学理論 ⑤	行動心理学
19	子育て支援に生かす様々な心理学理論 ⑥	認知心理学
20	子育て支援に生かす様々な心理学理論 ⑦	ブリーフセラピー
21	養育困難を抱える保護者の理解とサポート	養育のリスク要因 虐待が疑われる家庭
22	障害のある子どもをもつ保護者の理解とサポート	保護者との信頼関係 多くみられる障害について
23	精神疾患の疑いのある保護者の理解とサポート	サポートがうまくいかない時の一要因 多くみられる疾患について
24	子育て支援に生かす様々なアセスメント技法 ①	アセスメント技法 ①
25	子育て支援に生かす様々なアセスメント技法 ②	アセスメント技法 ②
26	その他の心理療法 ①	様々な心理療法 ①
27	その他の心理療法 ②	様々な心理療法 ②
28	総まとめ ②	振り返り・解説
29	親としての成長を支える	親になるということとへの理解
30	カウンセリング技法等の振り返り	【事例を通して】ロールプレイ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	心理実践Ⅳ／モチベーションマネジメント		
必修選択	選択必修	(学則表記)	心理実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	・モチベーション・インストラクター資格テキスト ・人生が大きく変わる アドラー心理学入門			出版社	・モチベーションマネジメント協会 ・かんき出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	目標達成への行動を喚起する、また達成するまで行動を持続するための理論理解は、保育者として必要な力である。本科目では身近な生活場面を元にモチベーション理論を実践的に学び、理解していく。		
到達目標	目標達成への行動を喚起する、また達成するまで行動を持続するための理論理解は、保育者として必要な力である。本科目では身近な生活場面を元にモチベーション理論を実践的に学び、理解していく。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。		
関連資格	モチベーション・インストラクター資格		
関連科目	心理実践Ⅰ　心理実践Ⅱ　心理実践Ⅲ		
備考	原則、この科目は対面授業方式にて実施する。		
担当教員	平川　香	実務経験	○
実務内容	保育士、幼稚園教諭資格を取得し、幼稚園勤務経験3年、保育園勤務経験10年以上を有する		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	モチベーションとは	モチベーション・インストラクター資格の趣旨理解 ①モチベーションとは何か ②なぜ重要か ③高める必要があるのか
2	期待理論①	モチベーションの3つの要素とは
3	期待理論②	やりたい感を高める3つのポイント
4	期待理論③（やらなきゃ感）	やらなきゃ感を高める4つのポイント
5	期待理論④（やれそう感）	やれそう感を高める3つのポイント
6	復習	期待理論
7	選択理論	選択理論
8	構造転換（スイッチ&フォーカス）	構造転換（スイッチ&フォーカス）

9	影響力の源泉	5つの影響力の源泉
10	P M理論	P M理論・2種類のリーダーシップ
11	テスト+復習	選択理論・構造展開を使いこなす
12	外発的/内発的モチベーション	モチベーションのタイプについて
13	欲求階層説（マズロー）	状態による欲求の違い
14	集団凝集性	集団・組織に魅力を感じる3つのポイント
15	全体まとめ	全体まとめ・インストラクター資格について
16	アドラー心理学とフロイト心理学	アドラー心理学とフロイト心理学の違い
17	アドラー心理学と5つの理論 ①	アドラー心理学とは ①
18	アドラー心理学と5つの理論 ②	アドラー心理学とは ②
19	自分との付き合い方 ①	感情との付き合い方
20	自分との付き合い方 ②	「怒り」との付き合い方
21	自分との付き合い方 ③	ライフタスク
22	人間関係 ①	人間関係とは
23	人間関係 ②	人間関係を作る理論と技法
24	仕事・リーダーとしての心理学 ①	集団心理 リーダーシップ論
25	仕事・リーダーとしての心理学 ②	アサーショントレーニング
26	仕事・リーダーとしての心理学 ③	コーチング
27	親子・家族関係の心理学 ①	家族理論
28	総まとめ ②	振り返り 確認
29	親子・家族関係の心理学 ②	望ましい親子関係とは
30	人生を豊かにする心理学	失敗から立ち直るということ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	スポーツ実践Ⅰ（幼児体育）		
必修選択	選択必修	（学則表記）	スポーツ実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児体育を指導する上で幼児期の発達と特性を理解し、自身の実技能力を高める				
到達目標	各種目の基本的な動き、表現力や技術の向上を目標にし、指導方法や補助法も習得する				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。				
関連資格	こども運動実践指導者検定2級・1級				
関連科目	体育(実技)・身体表現・体育(講義)・スポーツ実践Ⅱ・スポーツ実践Ⅲ・スポーツ実践Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業方式にて実施する。				
担当教員	堂閑 章宏（他1名）			実務経験	○
実務内容	幼児活動研究会（株）勤務歴21年を有する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	体を思い切り動かし 幼児体育の特性を理解する	マット・鉄棒・跳び箱・ボール・縄運動の特性を理解し実際に動いてみる
2	基本運動を実践し、 動くことの楽しさを実践する	スポーツの基本となる動きを組み合わせ、動くことの楽しさを実践する
3	個人レベル確認：マット種目①	幼児体育指導におけるマット運動基本を身につける
4	マット運動の補助①	マット運動の基本的な補助法を理解し、他者へ伝える
5	個人レベル確認：マット種目②	幼児体育指導におけるマット運動基本を身につける
6	マット運動の補助②	マット運動の基本的な補助法を理解し、他者へ伝える
7	個人レベル確認：跳び箱①	幼児体育における跳び箱運動の基本を身につける
8	跳び箱運動の補助①	跳び箱運動の基本的な補助法を理解し、他者へ伝える （開脚跳び）

9	個人レベル確認：跳び箱②	幼児体育における跳び箱運動の基本を身につける
10	跳び箱運動の補助②	跳び箱運動の基本的な補助法を理解し、他者へ伝える (台上前転)
11	個人レベル確認：鉄棒	幼児体育における鉄棒運動の基本を身につける
12	鉄棒の補助	鉄棒の基本的な補助法を理解し、他者に伝える
13	個人レベル確認：縄跳び運動	幼児体育における縄跳び運動の基本を身につける
14	マット実技	マット運動実技を行い習熟度を測る
15	前期振り返り	前期学んだ内容をまとめて、レポートにする
16	前期の振り返り	前期まとめたレポートを発表する
17	指導法を学ぶ①	幼児体育における系統的指導法を学ぶ
18	指導法を学ぶ②	幼児体育における段階的指導法を学ぶ
19	マット運動：グループワーク①	マットを用いて系統的、段階的指導法をグループで学ぶ
20	マット運動：グループワーク②	グループでマットを用いて系統的、段階的指導法を考案し、発展させる
21	跳び箱運動：グループワーク①	跳び箱を用いて系統的、段階的指導法をグループで学ぶ
22	跳び箱運動：グループワーク②	グループで跳び箱を用いて系統的、段階的指導法を考案し、発展させる
23	縄跳び運動：グループワーク①	縄を用いて系統的、段階的指導法をグループで学ぶ
24	縄跳び運動：グループワーク②	グループで縄を用いて系統的、段階的指導法を考案し、発展させる
25	ボール運動：グループワーク①	ボールを用いて系統的、段階的指導法をグループで学ぶ
26	ボール運動：グループワーク②	グループでボールを用いて系統的、段階的指導法を考案し、発展させる
27	サーキット運動①	後期に学んだ指導法を生かし、グループで種具を用いてサーキット運動を考案する
28	サーキット運動①	グループで種具を用いてサーキット運動を子供役、生徒役を決め実践する
29	後期振り返り	後期に学んだ内容をテーマを決めてレポートにする
30	後期振り返り	まとめ

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	スポーツ実践Ⅱ(幼児レクリエーション)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ実践Ⅱ		
開講			単位数	時間数	
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材			出版社		
科目の基礎情報②					
授業のねらい	子どもの身体的特徴や運動機能を理解し、運動遊びを学び、実践する				
到達目標	自分たちでレクリエーションを考案し、企画、指導できるようにする				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	体育(実技)・身体表現・体育(講義)・スポーツ実践Ⅰ・スポーツ実践Ⅲ・スポーツ実践Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業方式にて実施する。				
担当教員	堂閑 章宏（他1名）		実務経験	○	
実務内容	幼児活動研究会（株）勤務歴21年を有する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	運動遊びと幼児のレクリエーション	レクリエーションや遊びについて理解する			
2	伝承遊び①	昔からある遊びについて理解し、実践してみる			
3	伝承遊び②	昔からある遊びについて理解し、グループで実践してみる			
4	手遊びを理解する	子どもの発達に合わせた手遊びを学び、理解する			
5	手遊びを理解し、実践する	子どもの発達に合わせた手遊びをグループごとに発表する			
6	ことばの機能を育てるレク①	音や声を使い身体を表現する指導法を実践する			
7	ことばの機能を育てるレク②	音や声を使い身体を表現する指導法をグループに分かれて実践する			
8	社会性を育てるレク①	子どもたちの発達段階に合わせた運動遊び、レクリエーションを学ぶ			

9	社会性を育てるレク②	子どもたちの発達段階に合わせた運動遊び、レクリエーションを学ぶ
10	ごっこ遊び①	子どもたちの発達段階に合わせたごっこ遊びを学ぶ
11	ごっこ遊び②	子どもたちの発達段階に合わせたごっこ遊びを学び、グループごとに実践、発表する
12	0歳からできる運動遊び	年齢別の動きを理解し、乳幼児から親子で楽しめる運動遊びを実践する
13	発展性のある運動遊び①	昔遊びや様々な遊びの基本的ルールを発展的に考える
14	発展性のある運動遊び②	グループごとにテーマを与え先生役、子供役に別れてニュースポーツを行う
15	前期の振り返り	前期学んだ事をレポートに記入する
16	前期の振り返り	前期まとめたレポートを発表する
17	身体を使ったレクリエーション① (用具・手具)	年齢別にレクリエーションを理解し、身近な物を使い実際に動きながら理解を深める
18	身体を使ったレクリエーション② (座った姿勢・床、椅子)	年齢別にレクリエーションを理解し、座った姿勢で出来るレクを考え、実際に動きながら理解を深める
19	身体を使ったレクリエーション③ (グループレク)	年齢別にレクリエーションを理解し、大人数で出来るレクを実際に動きながら理解を深める
20	バルーン遊び①	バルーンを使い楽しく体を動かす
21	バルーン遊び②	バルーン遊びを理解し、音楽に合わせて動く
22	バルーン遊び③	グループに分かれてバルーンの動きを考え、他者に指導する
23	ボールを使ったレクリエーション	発達段階に合わせたボールレクリエーションを実践する。
24	新聞紙遊び	新聞紙を使い年齢に合わせたレクリエーション遊びを実践する
25	鬼ごっこ①	年齢別の動きを理解し、室内、屋外で出来る鬼ごっこを学び、実践する
26	鬼ごっこ②	年齢別の動きを理解し、室内、屋外で出来る鬼ごっこを学び、理解した上で先生役、子供役に分かれて行う
27	室内レクリエーション	室内で出来るレクを学び、グループに分かれて考案し、実践する
28	屋外レクリエーション	屋外で出来るレクを学び、グループに分かれて考案し、実践する
29	後期振り返り	後期で学んだことをまとめてレポートにまとめる
30	後期振り返り	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	スポーツ実践Ⅲ(保育行事・イベント運営)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼稚園、保育園の保育行事の中身を知り、子どもたちに何を伝えるかを学ぶ。各行事の保育者としての知識を得る。				
到達目標	行事の中身をしっかりと理解し、保育者として指導案をしっかりと立てる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	体育(実技)・身体表現・体育(講義)・スポーツ実践Ⅰ・スポーツ実践Ⅱ・スポーツ実践Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業方式にて実施する。				
担当教員	堂閑 章宏（他1名）			実務経験	○
実務内容	幼児活動研究会（株）勤務歴21年を有する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保育行事を知る(4月～9月)	幼稚園、保育園での保育行事の4月～9月の種類を知る。
2	入園式①	入園式の目的や意義を理解する。入園式にちなんだリズム遊びやリズム体操を学ぶ。
3	入園式②	グループで入園式の指導案を作成する。
4	入園式③	各グループで入園式の模擬保育を行う。
5	遠足や参観①	遠足や保育参観の目的や意義を理解する。
6	遠足や参観②	遠足や保育参観で出来る、運動やグループレクを学ぶ。
7	遠足や参観③	各グループで遠足、保育参観の模擬保育を行う。
8	プール遊び①	プール遊びの目的や意義を理解する。

9	プール遊び②	プール遊びでの年齢別の指導を理解する。
10	プール遊び③	プールの衛生管理、安全性について学びレポートにまとめる
11	泊まり保育やキャンプ活動①	泊まり保育での活動の大切さや、キャンプ活動ならではの遊び、レクを学ぶ。
12	泊まり保育やキャンプ活動②	グループで泊まり保育、キャンプ活動の行程表を作成する。
13	泊まり保育やキャンプ活動③	グループで泊まり保育、キャンプ活動の行程表を発表する。
14	怪我や応急処置	怪我の種類や応急処置について学ぶ。
15	前期の振り返り	前期学んだ内容をまとめて、レポートにする
16	前期の振り返り	前期学んだ内容をまとめて、発表する
17	保育行事を知る(10月～3月)	幼稚園、保育園での保育行事の10月～3月の種類を知る。
18	運動会①	年齢に合わせた運動会プログラムを考案し、実践する(0歳児～2歳児)
19	運動会②	年齢に合わせた運動会プログラムを考案し、実践する(3歳児)
20	運動会③	年齢に合わせた運動会プログラムを考案し、実践する(4歳児)
21	運動会④	年齢に合わせた運動会プログラムを考案し、実践する(5歳児)
22	運動会の環境設定	運動会に関する環境設定を学ぶ
23	体力測定①	幼児で行う、体力測定の種類、測定方法を学ぶ。
24	体力測定②	グループで体力測定を実践する
25	餅つきやクリスマス会①	グループに分かれて餅つき、クリスマス会の指導案を考える。
26	餅つきやクリスマス会②	グループに分かれて餅つき、クリスマス会の模擬保育を行う。
27	卒園式①	卒園式の目的や意義を理解する。
28	卒園式②	グループに分かれて卒園式の指導案を考える。
29	後期の振り返り	後期で学んだ事をレポートにまとめる
30	まとめ	後期で学んだ事をレポートにまとめたものを発表する。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	スポーツ実践Ⅳ(キッズダンス)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	①子どもの身体的特徴や運動機能の向上、社交性に繋がることを理解する。 ②ダンスを学び身につける。				
到達目標	①ダンスを通じ子どもが運動機能の向上やリズム感を養うこと、社交性に繋がるを理解し指導できる。 ②ダンスを身につけ子どもたちのお手本を示せる。 ③自らが振付を考案、企画、指導できる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	スポーツ実践Ⅰ・スポーツ実践Ⅱ・スポーツ実践Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業方式にて実施する。				
担当教員	堂閑 章宏（他1名）			実務経験	○
実務内容	幼児活動研究会（株）勤務歴21年を有する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	音楽を表現する方法や、身体の動かし方を学び、ダンスの楽しさを理解する。
2	アイソレーション①	アイソレーションを理解し、実践する。
3	アイソレーション②	アイソレーションで様々な部位を音に合わせて動かすことを学び、実践する。
4	リズムトレーニング①	音楽に乗り動く為のリズムを学び、理解する。
5	リズムトレーニング②	音楽に乗り動く為のリズムを学び、実践する。
6	ダンスステップ①	さまざまなダンスステップの名前や動きを学び、実践する。
7	ダンスベーシックとステップ①	グループや全体で学んだステップやベーシックをローテーションして実践する。
8	ダンスステップ②	さまざまなダンスステップの名前や動きを学び、実践する。

9	ダンスベーシックとステップ②	グループや全体で学んだステップやベーシックをローテーションして実践する。
10	ダンスルーティーン①	ベーシックやステップを組み合わせる事を学び、実践。
11	ダンスルーティーン②	ベーシックやステップを組み合わせる事を学び、グループごとに実践、発表する。
12	振付をしよう①	ステップだけでなく、遊びの中の動きやさまざまな動きが使えることを理解する。
13	振付をしよう②	子どもが真似したくなる、楽しく笑顔になる動きを理解し、実践する。
14	振付をしてみよう	さまざまな個性を出して振付を実践する。
15	前期振り返り	前期まとめ
16	前期振り返り	グループに分かれ、振付を発表する。
17	振付を踊ってみよう①	さまざまな振付を学び、実践する。
18	振付を踊ってみよう②	課題を覚え理解し、グループごとに実践、発表する。
19	ダンスベーシックとステップ③	グループや全体で学んだステップやベーシックをローテーションして実践する。☒
20	ダンスルーティーン③	ベーシックやステップを組み合わせる事を学び、グループごとに実践、発表する。
21	制限を使った振付①(手振)	手を使った振付を学び、考案してみる。
22	制限を使った振付②(座った姿勢)	座った姿勢での振付を学び、考案して実践する。
23	身体の動かし方、伝え方	子どもたちの発達段階に合わせた動かし方、伝え方を理解する。
24	指導法①	グループごとに、子どもたちの発達段階に合わせたケースメソッドで実践する。
25	指導法②	ジグソー形式に体感、考案して実践する。
26	ペアや複数振付	ペアや複数でのコンビネーションを学び、実践する。
27	フォーメーション①	グループ構成を学び、理解する。
28	フォーメーション②	グループごとにフォーメーション構成含めて、振付を考案、発表する。
29	後期振り返り	後期まとめ
30	年間振り返り	年間まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	病児実践Ⅰ／こどもの医学Ⅰ		
必修選択	選択必修	(学則表記)	病児実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子どもの保健検定2級・3級 公式テキスト			出版社	日本能率マネジメントセンター

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育士・幼稚園教諭となるために正しい知識を修得し、適切な対応力を身に付ける。				
到達目標	子どもの保健検定3級 取得				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。				
関連資格	子どもの保健検定3級				
関連科目	子どもの保健Ⅰ・Ⅱ				
備考	原則、この教科は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	館田 晃子			実務経験	○
実務内容	行政にて保健師として母子保健、保育園、障害福祉各種業務に25年以上勤務経験有、保健師・看護師免許取得者				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション・復習	授業のねらい、検定の概要、子どもの保健の復習
2	第1編 第1章 病気のサインの見つけ方	日常の観察と子どもの体温変化について
3	第1編 第1章 病気のサインの見つけ方	子どもの症状を見るポイント①
4	第1編 第1章 病気のサインの見つけ方	子どもの症状を見るポイント②
5	第1編 第2章 からだの観察で気づく疾患	腹部・陰部の観察と疑われる疾患について
6	第1編 第2章 からだの観察で気づく疾患	頸部・頭部の観察と疑われる疾患について
7	第1編 第3章 子どもに見られる感染症と予防接種	主な感染症と病原体、感染症による登園・登校の禁止について
8	第1編 第3章 子どもに見られる感染症と予防接種	子どもに多く見られる感染症の特徴、感染症に対する予防接種について

9	第1編 第4章 各症状への対応	発熱時、発疹時の対応について
10	第1編 第4章 各症状への対応	嘔吐時、下痢時、腹痛時の対応について
11	第1編 第4章 各症状への対応	咳嗽時、けいれん時の対応について
12	第1編 第5章 子どもへの救急対応	救急対応の基本と死因の知識、乳幼児の誤飲・窒息の対応について
13	第1編 第5章 子どもへの救急対応	救急の対応が必要となる場合について
14	第1編 第1章～第5章	検定に向けて対策を行う
15	第1編 第1章～第5章	総まとめ
16	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの健康と保健の意義、数字で見る子どもの健康について
17	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの発育と発達について
18	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの体位測定と体格評価指数について
19	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの体重・身長、目・耳の変化、骨・歯の変化について
20	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの呼吸、循環の変化について
21	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの反射について
22	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの疾病と保健（呼吸器、循環器、消化器、神経、筋疾患）について
23	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの疾病と保健（泌尿器、内分泌、血液、アレルギー、悪性腫瘍）について
24	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの精神保健について
25	第2編 第1章 子どもの保健	保育環境の衛生管理について
26	第2編 第1章 子どもの保健	保育環境の衛生管理、安全管理について
27	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの健康診査・健康診断について
28	第2編 第2章 子どもの食と栄養	乳児期の食と栄養
29	第2編 第2章 子どもの食と栄養	離乳期、幼児期の食と栄養について
30	第2編 第1章～第2章	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	病児実践Ⅱ／こどもの医学Ⅱ		
必修選択	選択必修	(学則表記)	病児実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	写真でわかる 小児看護技術 アドバンス			出版社	インターメディカ

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療保育士の役割を学び、病児やその家族に対する援助を考えることができる		
到達目標	医療に関わる保育士の役割を理解する 子どもの言動を理解し、援助の方法を具体的に考えられるようになる		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。		
関連資格			
関連科目	病児実践Ⅰ、病児実践Ⅲ、病児実践Ⅳ		
備考	原則、この教科は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	金城 有紀	実務経験	○
実務内容	看護師経験5年有		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 観察①	オリエンテーション 病児保育とは
2	観察②	バイタルサイン（呼吸・脈拍・体温）
3	観察③	血圧測定
4	観察④	トリアージ 虐待
5	コミュニケーション	小児のコミュニケーションの特徴
6	プレバレーション	心理的準備ができるよう援助する
7	日常生活の援助①	沐浴
8	日常生活の援助②	授乳

9	日常生活の援助③	おむつ交換
10	日常生活の援助④	抱っこ・おんぶ
11	日常生活の援助⑤	遊び
12	身体の計測	身長・体重・頭囲・胸囲測定
13	安静	小児における安静の特徴
14	移動・輸送	ベビーカー・車椅子・ストレッチャー
15	まとめ	総まとめ
16	安全	小児に起こりやすい事故と予防策
17	与薬①	薬理作用
18	与薬②	経口与薬・座薬・点滴注射
19	検体採取	採血、鼻腔・咽頭培養、採尿
20	腰椎・骨髄穿刺①	腰椎穿刺
21	腰椎・骨髄穿刺②	骨髄穿刺
22	酸素療法①	鼻カニューレ・フェイスマスク
23	酸素療法②	酸素 TENT・酸素ボックス
24	経管栄養法	経管栄養
25	吸入	吸入
26	吸引	吸引
27	救命救急処置①	心肺蘇生
28	救命救急処置②	口腔内・気道異物除去方法
29	腸重積・胃洗浄	腸重積・胃洗浄の処置
30	まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	病児実践Ⅲ／こども救急法		
必修選択	選択必修	(学則表記)	病児実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子どもをあずかる人のための救急マニュアル			出版社	学研

科目の基礎情報②

授業のねらい	いざという緊急の場面で、子どもの救命に最善を尽くせるように対処法を身につける				
到達目標	緊急時に対する的確な対応ができる				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	病児実践Ⅰ、病児実践Ⅱ、病児実践Ⅳ				
備考	原則、この教科は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	澤岬 由希乃			実務経験	○
実務内容	体育スポーツ指導歴10年経験有、中高保健体育教員免許取得者				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 救命の連鎖	オリエンテーション 救命の連鎖
2	乳児・小児のための一次救命①	救急車に引き継ぐまでの流れ 反応と呼吸の確認 回復体位のとり方と保温
3	乳児・小児のための一次救命②	心肺蘇生・AEDの使い方
4	乳児・小児のための一次救命③	心肺蘇生・AEDの使い方
5	乳児・小児のための一次救命④	気道異物除去 乳児・小児
6	乳児・小児のための一次救命⑤	水の事故の救助法
7	乳児・小児のための一次救命⑥	救急Q&A 119番通報のポイント
8	アナフィラキシーへの対処と対策①	アナフィラキシーとは アナフィラキシーの症状の見極めと対応

9	アナフィラキシーへの対処と対策②	緊急性の高いアレルギー症状が現れたら
10	アナフィラキシーへの対処と対策③	エピペン
11	アナフィラキシーへの対処と対策④	事前の対策 役割分担
12	アナフィラキシーへの対処と対策⑤	「食物アレルギー」症状の特徴
13	アナフィラキシーへの対処と対策⑥	「食物アレルギー」発症後の対応
14	アナフィラキシーへの対処と対策⑦	「気管支ぜんそく」急性発作への対応
15	まとめ	総まとめ
16	アナフィラキシーへの対処と対策⑧	そのほかのアレルギー疾患
17	アナフィラキシーへの対処と対策⑨	保育所・幼稚園・小学校のガイドラインと書式
18	症状別対応マニュアル①	応急手当とは 応急手当 止血法
19	症状別対応マニュアル②	応急手当 湿潤療法
20	症状別対応マニュアル③	応急手当 RICE療法
21	症状別対応マニュアル④	応急手当 包帯
22	症状別対応マニュアル⑤	熱が出た！ おう吐した！
23	症状別対応マニュアル⑥	けいれん（ひきつけ）をおこした！ 下痢をした！
24	症状別対応マニュアル⑦	せきが出る！ 苦しい！
25	症状別対応マニュアル⑧	発疹が出た！
26	症状別対応マニュアル⑨	熱中症をおこした！ やけどをした！
27	症状別対応マニュアル⑩	誤って何かを飲んだ！ おなかを痛がる！
28	症状別対応マニュアル⑪	頭を打った！ 鼻血が出た！
29	症状別対応マニュアル⑫	泣きやまない
30	まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	病児実践Ⅳ／ベビーシッター論		
必修選択	選択必修	(学則表記)	病児実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	家庭訪問保育の理論と実際 第2版			出版社	中央法規

科目の基礎情報②

授業のねらい	ベビーシッターなど居宅訪問型保育者となるために必要な知識と技術を身につける				
到達目標	・ 居宅訪問型保育者の社会的背景、経緯、位置づけについて理解する。 ・ 居宅訪問型保育者の役割について理解する。 ・ 訪問保育を行ううえで必要となる健康管理や疾病の予防又は対応など基礎知識について理解し、行うことができる。 ・ 抱っこやオムツ交換、服の着脱など、子どもと接する際に必要となる基本技術を行うことができる。 ・ 居宅訪問型保育を利用する家庭のニーズを知り、環境整備、保育者としての基礎姿勢、保護者への対応など配慮事項について理解する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	病児保育Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ				
備考	原則、この教科は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	角谷 允子			実務経験	○
実務内容	保育士、幼稚園教諭資格を取得し、幼稚園にて5年の勤務経験を有する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	家庭訪問保育とは	授業の流れ、到達目標の説明 家庭訪問保育の体系
2	居宅訪問型保育の概要①	居宅訪問型保育の社会的背景、経緯、歴史、概要
3	居宅訪問型保育の概要②	地域子ども子育て支援事業における居宅訪問型保育の展開
4	乳幼児の生活と遊び	子どもの発達と生活
5	乳幼児の発達と心理①	乳幼児の発達過程（言葉、他者、探索、移動）、保育者の役割
6	乳幼児の発達と心理②	乳幼児の発達過程（言葉、他者、探索、移動）、保育者の役割

7	乳幼児の発達と心理③ 振り返り	乳幼児の発達過程（言葉、他者、探索、移動）、保育者の役割 これまでを振り返りまとめる
8	乳幼児の食事と栄養①	乳児期（授乳・離乳の支援、離乳食の意味）、幼児期（幼児期の食事）
9	乳幼児の食事と栄養②	食物アレルギーなど、健康状態を考慮した食事、乳幼児期の食育
10	小児保健Ⅰ	乳幼児の健康観察のポイント、衛生管理・消毒について
11	小児保健Ⅱ①	子どもに多い症状や病気とその対応
12	小児保健Ⅱ②	事故予防と対応
13	小児保健Ⅱ③ 振り返り	心肺蘇生法 これまでを振り返りまとめる
14	実践演習①	お世話編（睡眠、抱っこ、おむつ替え、着替え）
15	実践演習②	お世話編（睡眠、抱っこ、おむつ替え、着替え）
16	居宅訪問型保育の保育内容①	居宅訪問型保育の内容、特徴、配慮事項
17	居宅訪問型保育の保育内容②	保育の計画に基づき行う保育
18	居宅訪問型保育における環境整備	居宅訪問型保育に必要な環境の基本
19	居宅訪問型保育の運営	居宅訪問型保育の業務の流れ、居宅訪問型保育者のマナー
20	安全の確保とリスクマネジメント	子どもの事故と予防、保育上の留意点、安全チェックリスト
21	居宅訪問型保育の職業倫理と配慮事項	居宅訪問型保育者としての基本姿勢と職業倫理
22	居宅訪問型保育における保護者への対応	居宅訪問型保育における保護者支援の必要性
23	振り返り 実践演習	これまでを振り返りとまとめる 遊び編（居宅での保育における遊び）
24	子どもの虐待①	子どもの虐待とは、子ども虐待の実態
25	子どもの虐待②	子どもの虐待の発見と通告
26	特別に配慮を要する 子どもへの対応（0～2歳児）	気になる行動、対応の仕方、居宅訪問型保育者の役割
27	これまでの振り返り	これまでを振り返りとまとめる
28	一般家庭訪問保育の業務の流れ	家庭訪問保育の業務の流れ
29	さまざまな家庭訪問保育	産後ケア、病児・病後児保育、障害児保育、送迎・同行保育、多胎児の保育、学童の保育
30	まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	音楽実践Ⅰ／音楽実践		
必修選択	選択必修	(学則表記)	音楽実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	弾きながらコード・ネームが学べる やさしいピアノ伴奏法			出版社	音楽之友社

科目の基礎情報②

授業のねらい	伴奏アレンジ・移調を含めた総合的なピアノ技術を身につける。		
到達目標	・和音の機能を理解し、歌の伴奏ができる。 ・現場の状況に合わせて伴奏をアレンジし、応用できる。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。		
関連資格			
関連科目	音楽実践Ⅱ・音楽実践Ⅲ・音楽実践Ⅳ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	大宜見 久仁子	実務経験	○
実務内容	ピアノ講師歴30年以上経験有、小中高音楽教員免許取得者		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業スケジュールと内容、コード付け導入
2	ハ長調の2コード	基本の伴奏パターン練習
3	ハ長調の2コード	コード付けと様々なアレンジ
4	ハ長調の3コード	基本の伴奏パターン練習
5	ハ長調の3コード	コード付けと様々なアレンジ
6	ハ長調のまとめ	演奏発表
7	ヘ長調の2コード	基本の伴奏パターン練習
8	ヘ長調の2コード	コード付けと様々なアレンジ

9	ヘ長調の3コード	基本の伴奏パターン練習
10	ヘ長調の3コード	コード付けと様々なアレンジ
11	ト長調の2コード	基本の伴奏パターン練習
12	ト長調の2コード	コード付けと様々なアレンジ
13	ト長調の3コード	基本の伴奏パターン練習
14	ト長調の3コード	コード付けと様々なアレンジ
15	ト長調のまとめ	演奏発表
16	ニ長調の3コード	基本の伴奏パターン練習
17	ニ長調の3コード	コード付けと様々なアレンジ
18	変ロ長調の3コード	基本の伴奏パターン練習
19	変ロ長調の3コード	コード付けと様々なアレンジ
20	長調の副三和音	副三和音の機能と特徴、基本の伴奏パターン
21	長調の副三和音	コード進行と伴奏アレンジ
22	長調のまとめ	演奏発表
23	長調の副属七の和音	副属七の和音の機能と特徴、基本の伴奏パターン
24	長調の副属七の和音	コード進行と伴奏アレンジ
25	イ短調の3コード	コードの移調
26	イ短調の3コード	基本の伴奏パターン練習
27	ニ短調・ホ短調の3コード	コード付けと様々な伴奏アレンジ
28	短調の副属七の和音	基本の伴奏パターン練習、コード付けと様々な伴奏アレンジ
29	和音・メロディーとコード	コードの知識と振り返り
30	まとめ	演奏発表

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	音楽実践Ⅱ／音楽遊び		
必修選択	選択必修	(学則表記)	音楽実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	第2版アクティブラーニングを取り入れた子どもの発達と音楽表現 幼稚園教諭・保育士養成課程			出版社	学文社

科目の基礎情報②

授業のねらい	聴く、歌う、奏でる、動く活動を基に想像性や創造性のある音楽教育へと発展させる知識や技術を身につける。				
到達目標	・子どもの発達と音楽表現について理解できている。 ・子どもの発達に応じた音楽教育の知識と技術がに身につけている。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	音楽実践Ⅰ・音楽実践Ⅲ・音楽実践Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業にて実施する。				
担当教員	豊里 リカ			実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭資格を取得し、幼稚園教諭として15年勤務経験有				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 子どもの発達と表現	授業の流れ、到達目標について。領域「表現」の内容を踏まえた音楽表現活動について。
2	音楽の要素と音楽表現（1）	音楽の要素やコミュニケーションツールとしての音楽について、手あそびや歌あそびを通して体験する。（呼吸と拍、テンポと強弱、拍子とリズム、形式とニュアンス、コミュニケーション）
3	音楽の要素と音楽表現（2）	音楽の要素やコミュニケーションツールとしての音楽について、手あそびや歌あそびを通して体験する。（呼吸と拍、テンポと強弱、拍子とリズム、形式とニュアンス、コミュニケーション）
4	音楽の要素と音楽表現（3）	ストーリー性のある表現あそびプログラムの作成を行う。
5	音楽の要素と音楽表現～まとめ	ストーリー性のある表現あそびプログラムの発表を行う。
6	子どもの発達と音楽表現（1）	子供の発達の様子に合った手あそび・歌あそびを学習する。
7	子どもの発達と音楽表現（2）	子供の発達の様子に合った手あそび・歌あそびを学習する。

8	子どもの発達と音楽表現（3）	発達過程にあった遊び方や遊びの展開を立案する。
9	子どもの発達と音楽表現 ～まとめ	発達過程にあった遊び方や遊びの展開を実践する。
10	聴く活動（1）	乳幼児期における聴覚の発達を概観し、表現活動にもつながる聴く活動についての理解を深める。
11	聴く活動（2）	聴く活動に適した曲について学習する。
12	聴く活動～まとめ	子ども向けのクラシック音楽を使って聴く活動につなげる。
13	歌う活動（1）	歌う活動について、保育者に求められる援助の在り方についての理解を深め、保育現場における歌う活動の実践力を培う。
14	歌う活動（2）	歌う活動の実践をする。（わらべうた、歌の情景や心情を味わう）
15	歌う活動～まとめ	保育教材を用いた歌う活動の実践（身体の動きを通して歌を味わう）
16	動く活動	動く活動の実践をする。
17	奏でる活動（1）	奏でる活動の基本的事項について学習する。
18	奏でる活動（2）	リズム譜の書き方の基本を学習する。
19	奏でる活動（3）	奏でる活動を実践する。（ボディーパーカッション）
20	奏でる活動（4）	奏でる活動を実践する。（楽器の組み合わせとリズム打ち）
21	奏でる活動（5）	奏でる活動を実践する。（楽器の組み合わせとリズム打ち）
22	つくる活動（1）	子どもの発達と作る活動について。つくる活動の意義とねらい、つくる活動に伴う音づくりについて学習する。効果音について。
23	つくる活動（2）	効果音を使った表現あそびについて学習する。
24	つくる活動（3）	効果音を使った表現あそびについて学習する。
25	つくる活動～まとめ	効果音を使った表現あそびの発表。
26	つくる活動（4）	手作り楽器の制作をと合奏を行う。
27	つくる活動（5）	音楽劇について学習する。音楽劇の鑑賞を行う。
28	つくる活動（6）	音楽劇について学習する。音楽劇の制作を行う。
29	つくる活動（7）	音楽劇について学習する。音楽劇の制作を行う。
30	総まとめ	音楽劇の発表

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	音楽実践Ⅲ／リトミック（表現あそび）		
必修選択	選択必修	（学則表記）	音楽実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	幼稚園・保育園のためのリトミック3、4、5			出版社	リトミック研究センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	リトミックの指導技術を身に付け、指導資格取得を目的とする。				
到達目標	・ 幼稚園・保育園のためのリトミック指導について理解し、その技術を身につけることができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。				
関連資格	幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格（2級・1級）				
関連科目	音楽実践Ⅰ・音楽実践Ⅱ・音楽実践Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	蓼田 麗子			実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭として主任経験あり、幼保現場10年以上勤務経験者				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	リズム-1	オリエンテーション、リトミックについて、楽しいリトミックの経験（1）
2	リズム-2	楽しいリトミックの経験（2）、強弱・テンポ・空間・アクセント（1）、基礎的な動き（1）、基礎リズム（1）（2拍子）
3	リズム-3	楽しいリトミックの経験（3）、基礎的な動き（2）、基礎リズム（2）（2拍子）、拍子（1）
4	リズムの演奏法-1	リズムの演奏法（3歳児指導法-1学期）
5	ティーチング-1	3歳児指導法-1学期
6	リズムの演奏法-2	リズムの演奏法（3歳児指導法-2学期）
7	ティーチング-2	3歳児指導法-2学期
8	リズム-4	楽しいリトミックの経験（4）、基礎リズム（3）（2拍子）、拍子（2）

9	ティーチング-3	3歳児指導法-3学期
10	リズムの演奏法-3	リズムの演奏法（3歳児指導法-3学期）、認定試験内容公示
11	リズム-5	楽しいリトミックの経験（5）、基礎リズム（4）（3・4拍子）、拍子（3）
12	ティーチング-4	3歳児指導法総括-1～3学期
13	リズム-6	楽しいリトミックの経験（6）、リズムカノン（1）導入、リズムフレーズ（1）2・3拍子
14	リズムの演奏法-4	リズムの演奏法（3歳児指導法-1～3学期）
15	前期まとめ	リトミックの理論とダルクローズについて（1）、2級資格認定試験
16	ティーチング-5	4歳児指導法-1学期
17	ティーチング-6	4歳児指導法-2学期
18	リズム-7	楽しいリトミックの経験（7）、リズムカノン（2）（3拍子）、リズムフレーズ（2）2・3拍子
19	リズムの演奏法-5	リズムの演奏法（4歳児指導法-1～2学期）
20	ティーチング-7	4歳児指導法-3学期
21	ティーチング-8	5歳児指導法-1学期
22	リズム-8	楽しいリトミックの経験（8）、リズムカノン（3）（3・4拍子）、複リズム（1）Ostinato
23	リズムの演奏法-6	リズムの演奏法（4歳児指導法-3学期・5歳児指導法-1学期）
24	ティーチング-9	5歳児指導法-2学期
25	ティーチング-10	5歳児指導法-3学期
26	リズム-9	楽しいリトミックの経験（9）、リズムカノン（4）（3・4拍子）、複リズム（2）Ostinato
27	ティーチング-11	4・5歳児指導法総括
28	リズム-10	楽しいリトミックの経験（10）、リズムカノン（5）（3・4拍子）、複リズム（3）Ostinato
29	リズムの演奏法-7	リズムの演奏法（5歳児指導法-2～3学期）
30	後期まとめ	リトミックの理論とダルクローズについて（2）、1級資格認定試験

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	音楽実践Ⅳ／こどもと音楽		
必修選択	選択必修	(学則表記)	音楽実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	保育士・教師をめざす人、集まれ～！ みんなピアノ大好き！			出版社	全音楽譜出版社

科目の基礎情報②

授業のねらい	クラシックやポップスなど幅広い音楽のレパートリーを学習し、保育現場に活かせる音楽表現技術を身に付ける。		
到達目標	様々なジャンルの曲を正しく理解し、その曲に合った演奏表現ができる。 ピアノアンサンブルを通して、各パートの内容を理解し演奏することができる。 コードを理解して曲に合ったアレンジをすることができる。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。		
関連資格			
関連科目	音楽実践Ⅰ・音楽実践Ⅱ・音楽実践Ⅲ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	島仲 尚子	実務経験	○
実務内容	ピアノ講師歴20年以上経験有、中高音楽教員免許取得者		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について。
2	マーチ（1）	マーチ曲をコードアレンジやソロ・連弾などを通して学習する。
3	マーチ（2）	マーチ曲をコードアレンジやソロ・連弾などを通して学習する。
4	マーチ（3）	マーチ曲をコードアレンジやソロ・連弾などを通して学習する。
5	マーチ（4）	マーチ曲をコードアレンジやソロ・連弾などを通して学習する。
6	ダンス（1）	ダンス曲をコードアレンジやソロ・連弾などを通して学習する。
7	ダンス（2）	ダンス曲をコードアレンジやソロ・連弾などを通して学習する。
8	まとめ	マーチ・ダンス曲の演奏発表

9	日本の音楽	日本の音楽を（わらべうた等）コードアレンジなどを通して学習する。
10	世界の音楽（1）	世界の様々な音楽について学ぶ。連弾によるアンサンブル学習を行う。
11	世界の音楽（2）	世界の様々な音楽について学ぶ。連弾によるアンサンブル学習を行う。
12	ポップス（1）	ポップス曲をコードアレンジやソロ・連弾などを通して学習する。
13	ポップス（2）	ポップス曲をコードアレンジやソロ・連弾などを通して学習する。
14	ポップス（3）	ポップス曲をコードアレンジやソロ・連弾などを通して学習する。
15	まとめ	日本の音楽・世界の音楽・ポップス曲の演奏発表
16	クラシック（1）	クラシック曲について学習する。 曲の背景について調べたり、ピアノ曲以外の作品の鑑賞も行う。
17	クラシック（2）	クラシック曲について学習する。 曲の背景について調べたり、ピアノ曲以外の作品の鑑賞も行う。
18	クラシック（3）	クラシック曲について学習する。 曲の背景について調べたり、ピアノ曲以外の作品の鑑賞も行う。
19	クラシック（4）	クラシック曲について学習する。 曲の背景について調べたり、ピアノ曲以外の作品の鑑賞も行う。
20	クラシック（5）	クラシック曲について学習する。 曲の背景について調べたり、ピアノ曲以外の作品の鑑賞も行う。
21	まとめ	クラシック曲の演奏発表
22	クラシック（6）	クラシック曲のアンサンブル作品について学習する。
23	クラシック（7）	クラシック曲のアンサンブル作品について学習する。
24	クラシック（8）	クラシック曲のアンサンブル作品について学習する。
25	クラシック（9）	クラシック曲のアンサンブル作品について学習する。
26	クラシック（10）	クラシック曲のアンサンブル作品について学習する。
27	まとめ	クラシック曲のアンサンブル作品の演奏発表
28	音楽づくり（1）	様々な音階による即興演奏について学習する。
29	音楽づくり（2）	様々な音階による即興演奏について学習する。
30	1年間のまとめ	成果発表会

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	インターンシップ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材	なし			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	責任ある立場での職業体験を通じて、働くことの意味や厳しさ（楽しさ）を体感し、就職活動の幅を広げる。				
到達目標	・学んできたことを活かす楽しさを知る。 ・実際の職場での体験を通じて、自分自身の適性を確認する。 ・自分の力を発揮できる就職先を見つける。				
評価基準	提出物や面接結果（70%）および参加姿勢（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目					
備考					
担当教員	宇留間 厳憲（他1名）			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	就職指導		
必修選択	選択	(学則表記)	就職指導		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	保育科	1	30
使用教材	なし			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	最適であり、望む就職が出来る知識・技術を身に付ける		
到達目標	自身や園、施設の特性を理解し、それぞれが納得した就職先を実現することができる。 社会人としてのマナーを理解することができる。 文書や言葉で自分の思いを伝えることができる。 敬語などTPOに合わせた適切な言葉遣いで話すことができる。		
評価基準			
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上あるもの 成績評価が2以上のもの		
関連資格			
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	平川 香	実務経験	○
実務内容	保育士、幼稚園教諭資格を取得し、幼稚園勤務経験3年、保育園勤務経験10年以上を有する		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 就職活動ルール	授業の流れ・年間スケジュール 学校の定めるルールを知り・理解する
2	各種特性理解(幼稚園・こども園)	幼稚園の特性を理解する
3	各種特性理解(保育園)	保育園・保育所の特性を理解する
4	各種特性理解(社会的養護施設)	社会的養護施設の特性を理解する
5	自己分析①	自分の特性を理解する
6	自己分析②	就職希望条件のリストアップをする 希望就職種別を決める
7	求人の方	求人票の見方、福利厚生について

8	面接依頼電話・メール方法	好印象を与える電話掛け・メールの方法を学ぶ
9	書類準備方法 履歴書作成	就職試験に必要な書類準備をする 履歴書の書き方について
10	履歴書作成	自己PR作成
11	履歴書作成	志望動機作成
12	職種理解まとめ	幼稚園・保育園・施設それぞれの特徴について理解を深める
13	社会人の言葉使い	敬語の使い方 面接時の対応方法を学ぶ
14	試験対策(面接)①	質問回答作成をする
15	試験対策(面接)②	模擬面接をする
16	試験対策(面接)③	フィードバックを受け、改善点を見つける
17	試験対策(面接)④	模擬面接をする
18	試験対策(筆記試験対策)①	筆記試験対策の小テスト
19	就職決定後①	お礼状の記入方法を学ぶ
20	就職決定後①	就職活動報告書の記入方法を学ぶ
21	研修について①	研修マナーについて知る
22	研修について②	研修内容について知る
23	あいさつと話し方・聞き方	社会人に求められる態度・振る舞いについて学ぶ クレームの受け方と言葉遣いについてについて学ぶ
24	電話応対	電話のマナーと話し方・かけ方・受け方・取り次ぎのポイントについて 好印象を与えるクッション言葉の活用と聞き違いを防ぐ復唱のポイントについて
25	来客応対	受付・取り次ぎ・案内・席次・茶菓接待・見送りのマナーのポイントについて
26	仕事の進め方	指示の受け方・報告・連絡・相談の仕方と、失敗への対処と注意の受け方について 好感を与えるコミュニケーションスキルについて
27	未来について①	5年後・10年後をイメージし、キャリアプランを考える
28	未来について②	ポジティブな言葉掛けとはなにか理解する
29	未来について③	保育現場での事例について考える
30	まとめ	1年間の総まとめを行う